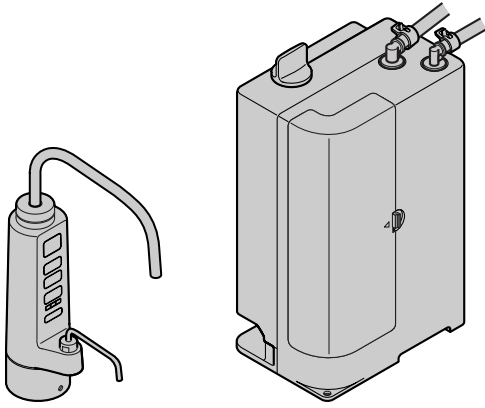


施工説明書

ビルトインアルカリ整水器 **家庭用**

品番 **TKB6000**

上水道専用



- **工事は、この施工説明書に従って正しく行ってください。**
 - 配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。
なお、シンクの種類、フロアキャビネットの組み合わせによって、配管接続方法が異なりますのでご注意ください。
- **最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）は、必ず行ってください。**
- **工事終了後、取扱説明書・保証書・グリセロリン酸カルシウム製剤・pH試験液および施工説明書は、必ずお客様（施主）にお渡しください。**
- **正しい設置をされなかった場合の製品の故障および事故について、当社は責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。**



も く じ

	ページ
安全上のご注意	2
工事上のお願い	5
付属部品一覧	6
工具一覧	6
工事の概要	8
工事の前に（必ず確認してください）	9
コンセントの取り付け	12
止水栓の取り付け	13
ワークトップへの穴あけ	14
整水器用水栓の取り付け	15
整水器本体の設置と接続	17
● 整水器用水栓をキャビネット外（配管スペース）に取り付ける場合	20
● 整水器本体の固定／ずれ防止について	21
最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）	22
最終点検チェックリスト	25
参考	26
● 配管方式について	26
● カートリッジについて	26




安全上のご注意 必ずお守りください

施工される人への危害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、施工において必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。







■表示内容を見逃して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

飲用に合格した水(水道水など)以外には使用しない  殺菌能力がなく、除去できる物質（26ページ参照）以外の有害物質は除去できないため、飲むと体調を損なう原因になります。 禁止	設置は、この施工説明書に従って、確実に行う  設置に不備があると、火災・感電・事故の原因になります。
コンセントの設置は、電気設備技術基準や内線規程に従って、電気工事が、安全、確実に行う  誤った電気工事は、感電や火災の原因になります。	コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない  たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。 禁止
電源コードは、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置する  電源コードが破損し、感電・ショート・火災の原因になります。	配管部以外は、分解したり、修理・改造しない  火災・感電の原因になります。 分解禁止

警告

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない



(・ステープル (罎) など固定する ・傷つける ・加工する ・熱器具に近づける)
(・無理に曲げる ・ねじる ・引っ張る ・重い物を載せる ・束ねる ・挟み込む など)

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

電源プラグは、根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。



注意

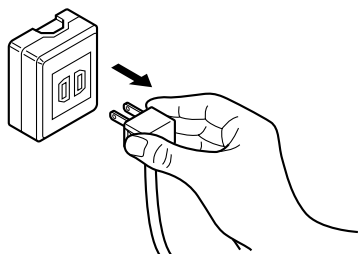
ワークトップ (カウンタートップ) の穴あけには、材質に合った工具を使う

(天然大理石、ホーローなど特殊なものについては、キッチンメーカー指定の工事方法で行ってください。)



無理に穴あけをしようとすると、ワークトップ (カウンタートップ) を破損する原因になることがあります。

電源プラグをコンセントから抜くときはプラグをもって抜く

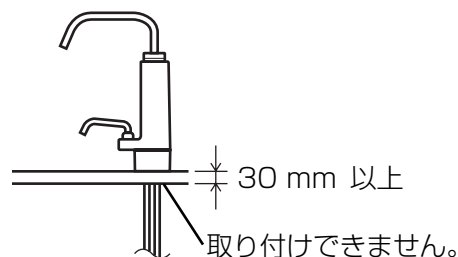


電源コードを引っ張るとコードが破損し、感電・火災・ショートの原因になります。

ワークトップ (カウンタートップ) が厚さ 30 mm 以上の場合は、穴あけしない



禁止



取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

ワークトップ (カウンタートップ) や流し台 (キャビネット内) に穴をあけるときは、屋内配管を傷つけない



禁止

万一、水漏れが起これると、大きな補償問題になることがあります。

安全上のご注意

必ずお守りください

⚠ 注意

本器は、整水器本体・付属の整水器用水栓および設置部材を、セットで使用する



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になります。

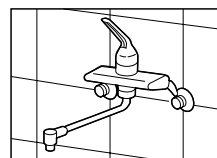
- 整水器本体および整水器用水栓を、単独で使わないでください。

壁面取付タイプの水栓には、取り付けない



禁止

(例)



配管が不明確なので、取り付けができなかったときに補償問題になります。

整水器用水栓の先に、他の機器を接続しない



禁止

整水器本体に異常な水圧がかかり、水漏れの原因になります。

整水器本体は平らな場所に設置する



不安定な状態で設置すると、転倒してけがの原因になります。

ホース類を折り曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、挟み込んだりしない



禁止

水漏れの原因になります。

- ホース類は、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置してください。

配管は、水漏れのしないよう確実に
特に固定金具(クイックファスナー)
などは、確実に取り付ける



確実に接続されていないと、ホースがはずれて水漏れの原因になります。

先止め(26ページ参照)の配管に改造しない



禁止

整水器本体に常時水圧がかかり、ウォーターハンマーなどにより、水漏れの原因になります。

一次給水側は、特に水漏れがないように確実に接続する



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

最終点検時は、整水器用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検を十分に行う



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

工事上のお願い

■ 次のような場所には設置しないでください。(故障の原因)

- 高温部(40℃以上)の近く
- 浴室や整水器本体に水・蒸気のかかる所
- 屋外や風雨にさらされる所
- 油の付着する所
- 凍結の可能性のある所(本器は寒冷地仕様ではありません。)

■ 配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。

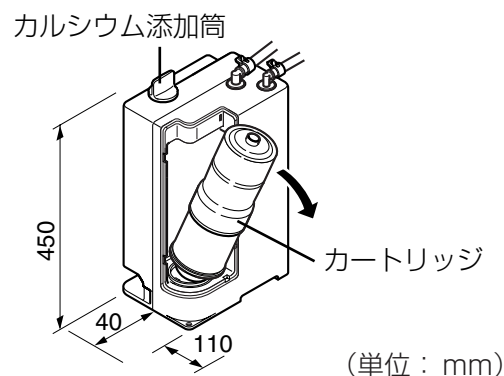
なお、シンクの種類、フロアキャビネットの組み合わせによって配管接続方法が異なります。

■ 水道法基準適合の認証登録品ですので、必ず整水器本体、付属の整水器用水栓、設置部材をセットでご使用ください。

■ 整水器本体を設置する前に、電源コンセント(交流100V)をキャビネット内部に取り付けてください。

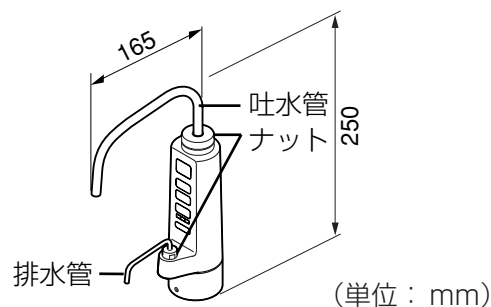
(キャビネット内部に取り付けできない場合は、12ページの「キャビネット内にコンセント」が固定できない場合」を参照してください。)

■ 設置場所は、流し台(キャビネット内)に取り付ける棚やオプションの位置によって決めますが、必ずお客様(施主)とご相談のうえ、カートリッジ交換およびカルシウム添加が容易な位置に設置してください。(最低でも右記寸法のスペースが必要です。)



■ 昇降式のキャビネットがある場合は、可動部が接触しない位置に整水器用水栓を設置してください。(最低でも右記寸法のスペースが必要です。)

■ 整水器用水栓の吐水管と排水管のナットは、工具で締めつけしないでください。(故障の原因)



■ 本体を倒した状態で設置しないでください。(故障の原因)

■ 給湯配管には接続しないでください。(故障の原因)

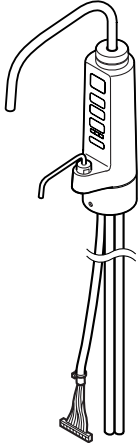
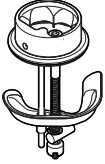
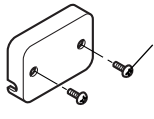
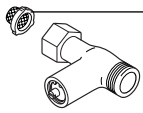
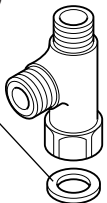

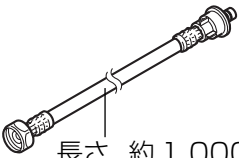
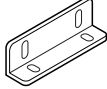



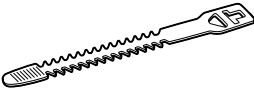
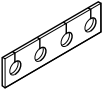


■ 水の出口(吐水口・排水口)を、ホースなどで延長しないでください。(故障の原因)

■ 排水口をふさがないでください。(故障の原因)


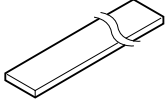
■ 工事の際に、流し台の構造や材質などの確認が必要になった場合は、キッチンメーカーへお問い合わせください。

付属部品一覧

次の付属部品を確認してください。

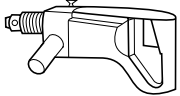
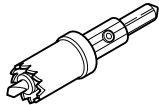

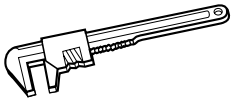
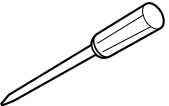
整水器用水栓〔1本〕 	水栓固定金具〔1個〕 	コネクターカバー〔1個〕 (ねじ2本付き)  ねじ (テープ止め しています。) 	止水栓〔1個〕 (逆止弁付・呼び径 1/2)  フィルター付 パッキン〔1個〕 (テープ止め しています。)
	片ナットチーズ〔1個〕 (呼び径 1/2)  パッキン〔1個〕 (テープ止め しています。) 	固定金具〔1個〕 (クイックファスナー) (No.12.7) 	給水ホース〔1本〕 (呼び径 1/2)  長さ 約 1 000 mm
L字金具〔1個〕 (本体ずれ防止用) 	粘着テープ〔1枚〕 (L字金具固定用) 	ホース締付バンド (大・1個、小・1個) 	配管接続用パッキン (1個) 
ホース固定バンド〔2本〕 	防虫シート〔1枚〕 	pH試験液〔1個〕 	タッピンねじ〔2本〕 
取扱説明書一式 [取扱説明書、保証書、グリセロリン酸カルシウム製剤 (1袋)]、施工説明書			

流し台や配管方法によって必要な部品 (別途準備してください。)

給水ホースを延長する場合 ●フレキ管 (SUS. 呼び径 1/2) または ステンレス製ブレードホース (呼び径 1/2) 水道法適合品で 防錆用の被覆があるものをご使用ください。 ●フレキ管用ニップル (呼び径 1/2)  パッキン	ステンレス製のワークトップで補強板が付いて いない場合、また補強板が付いていても、ワーク トップと合わせた厚さが 5 mm 以下の場合 ●補強板 (厚さ 10 mm ~ 15 mm) 
--	---

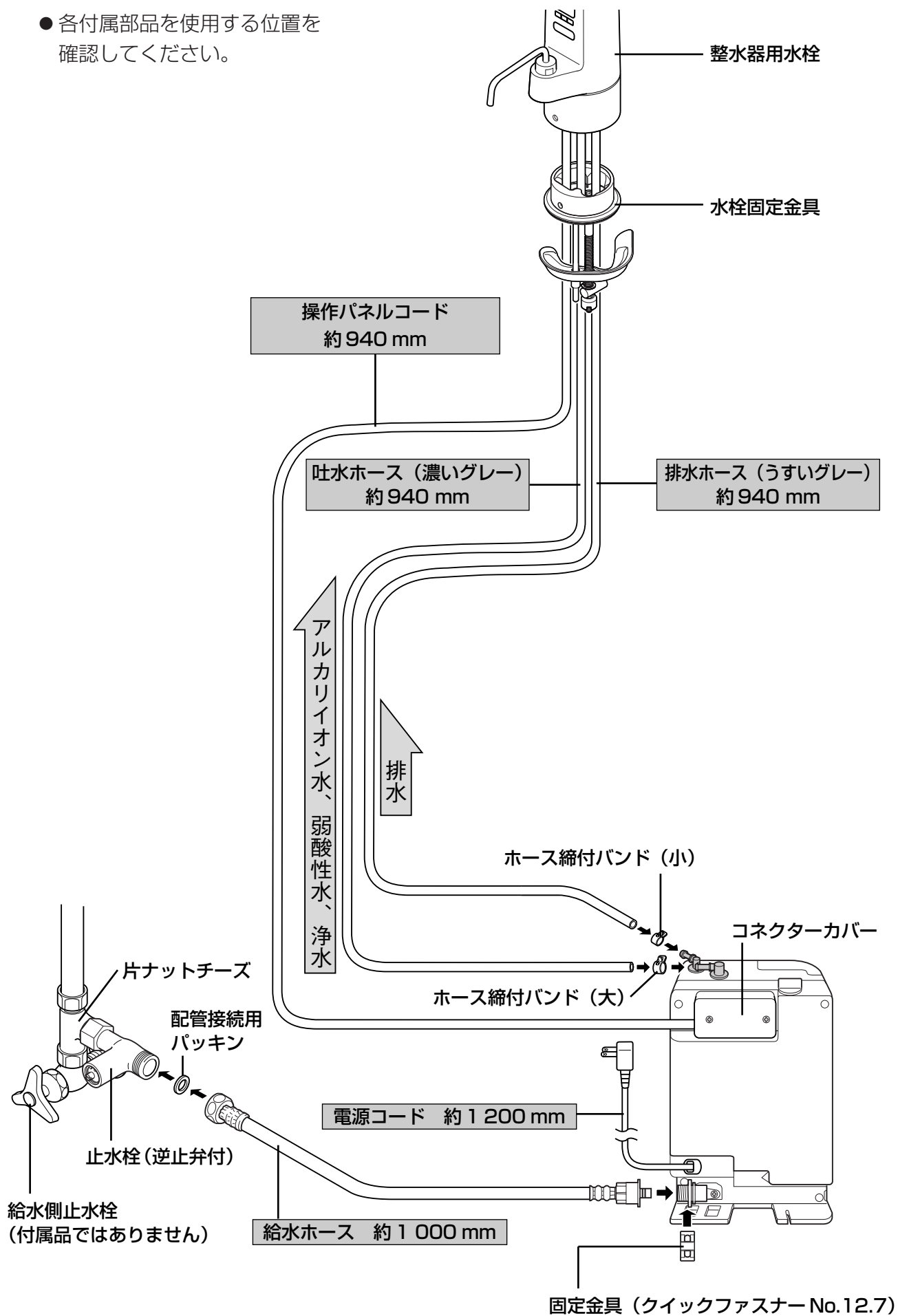
工具一覧

■ 工事には、下記の工具が必要です。 (別途準備してください。)

電動ドリル 	ホールソー サイズ ● $\phi 35 \sim \phi 39$ ● $\phi 27 \sim \phi 29$ 	六角レンチ サイズ ● 2.5 mm ● 4 mm 
※ ワークトップの穴あけや、配管・コード用の貫通穴をあける場合に使用します。		
モーターレンチまたはモンキーレンチ 	⊕および⊖ドライバー 	● スケール ● ヤスリ ● ハサミ ● ペンチ ● カッター

■ 付属部品使用箇所確認図

- 各付属部品を使用する位置を確認してください。

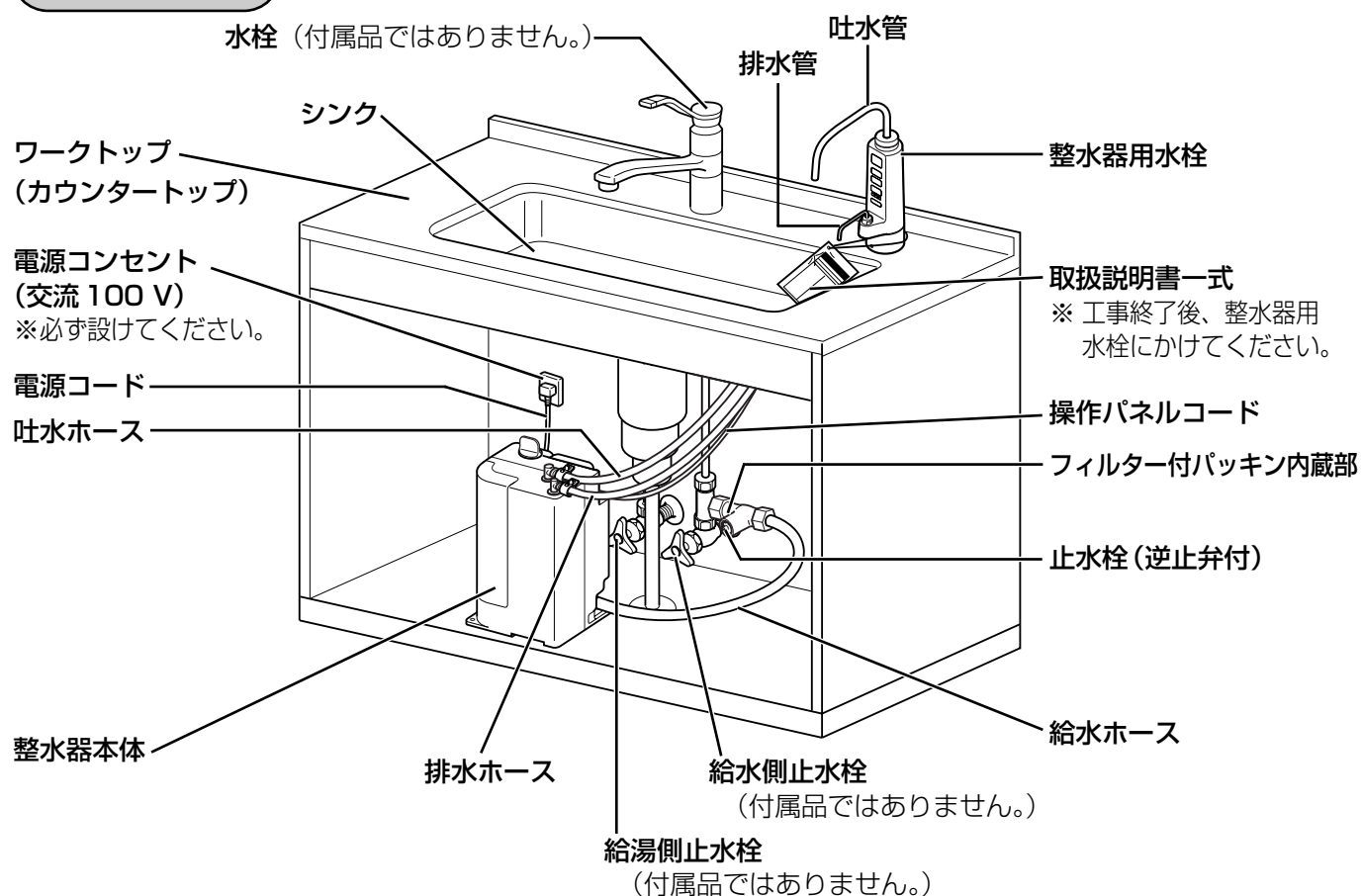


工事の概要

参照ページ

工事の前に（必ず確認してください）	9～11
コンセントの取り付け	12
止水栓の取り付け	13
ワークトップへの穴あけ	14
整水器用水栓の取り付け	15～16
整水器本体の設置と接続	17～21
● 整水器用水栓をキャビネット外（配管スペース）に取り付ける場合	20
● 整水器本体の固定または、ずれ防止が必要な場合	21
最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）	22～25

概要図



工事の前に（必ず確認してください）

チェック欄にチェックしながら、必ず確認してください。

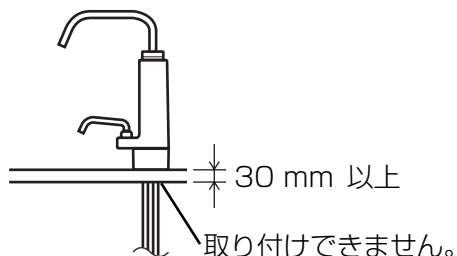
チェック



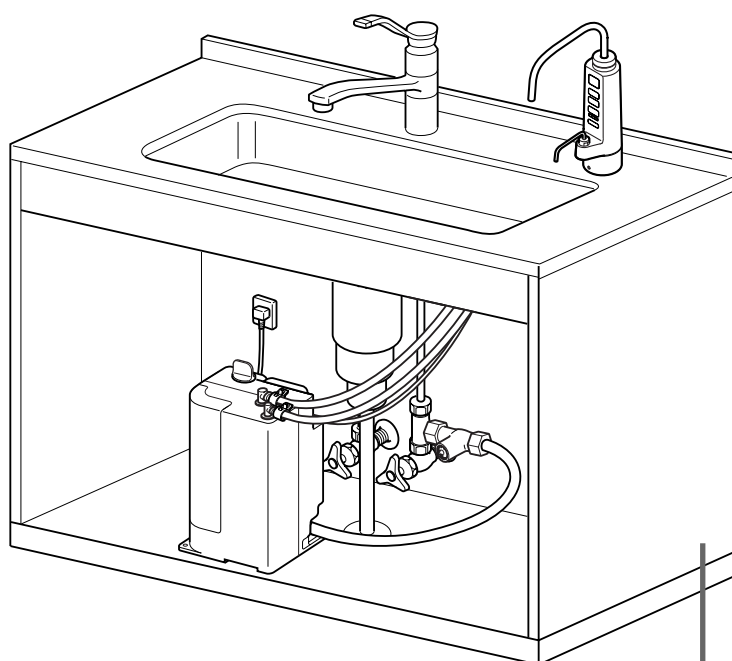
ワークトップ（カウンタートップ）が厚さ 30 mm 以上の場合は、穴あけしない



禁止



取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

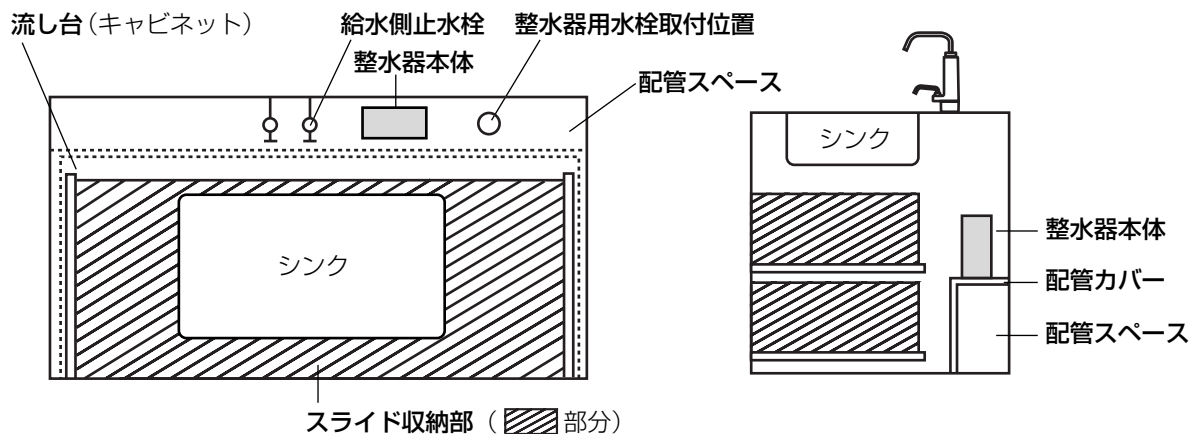


流し台のタイプを確認する（下図は一例です。設置できないキャビネットもありますのでキッチンメーカーにご確認ください。）

チェック



- スライド収納式のキッチンには、整水器本体をキッチンの配管カバー上に置きます。
〔整水器本体が不安定なときは、本体の固定または、ずれ防止を行う必要があります。
(21 ページ参照)〕



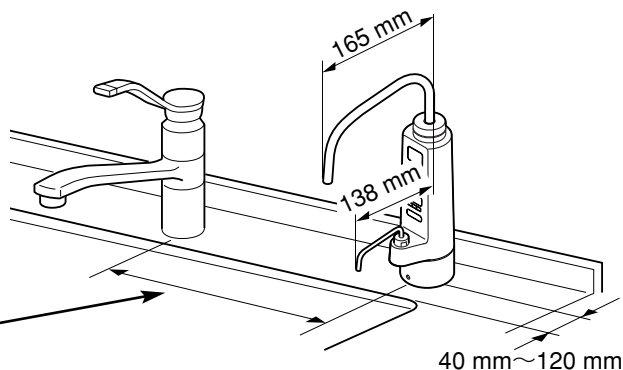
工事の前に（必ず確認してください）

■ 整水器用水栓の位置決めのポイント



水がシンクの中に流れる所 チェック

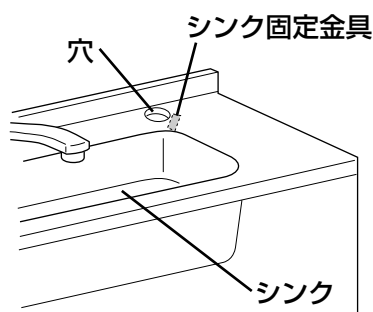
- 整水器用水栓のセンターからシンクまでが、約 40 mm ~ 120 mm の位置に設置する



- 点検口から工事ができる位置（300 mm 程度）
※キッチンメーカーの施工説明書に従ってください。

※水栓底部がワークトップの段差や曲面に乗り上げない位置

裏側にシンク固定金具がない所 チェック

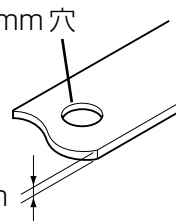


ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合、また補強板が付いていても、ワークトップと合わせた厚さが 5 mm 以下の場合…

- 補強板が必要です。

φ 35 mm ~ φ 40 mm 穴

厚さ 10 mm ~ 15 mm

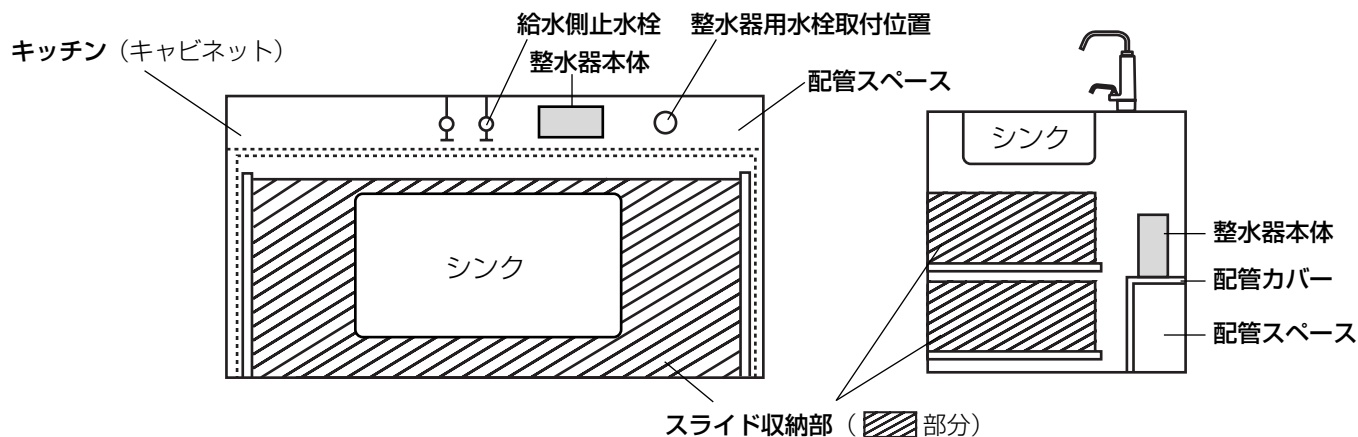


- イラストは、右側に整水器用水栓を設置した場合を使用して説明していますが、左側に設置する場合も、位置決めのポイントや工事の手順は同じ要領です。

■スライド収納式のキッチンについて

キッチンの配管カバー上に整水器本体を設置する場合があります。スライド収納の引き出しをはずしてから工事を行ってください。

[整水器本体が不安定なときは、本体の固定または、ずれ防止を行う必要があります。(21 ページ参照)]



- スライド収納の引き出しの取りはずし、取り付けはキッチンの取扱説明書に従い、正しく行ってください。

警告

電源コードは、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置する



電源コードが破損し、感電・ショート・火災の原因になります。

注意

ホース類を折り曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、挟み込んだりしない



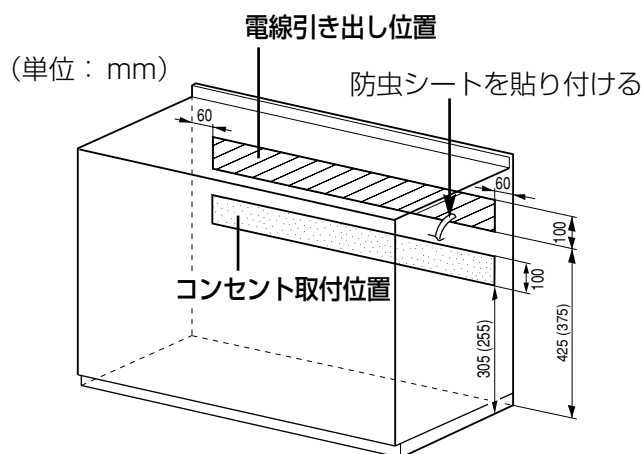
水漏れの原因になることがあります。

禁止



- ホース類は、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置してください。

コンセントの取り付け

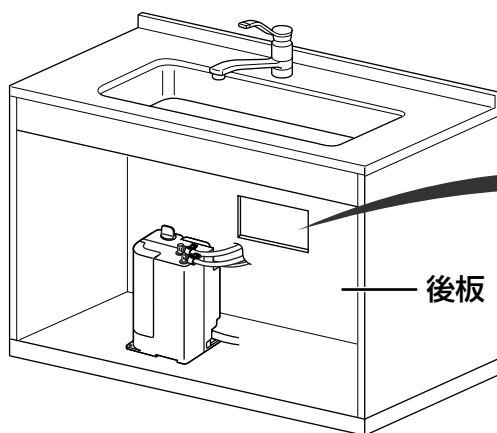
キッチンのキャビネット内または配管スペースに、本体電源用の**コンセント(AC100V)**が必要です。



※ () 寸法はキッチンの高さ 80 cm の場合

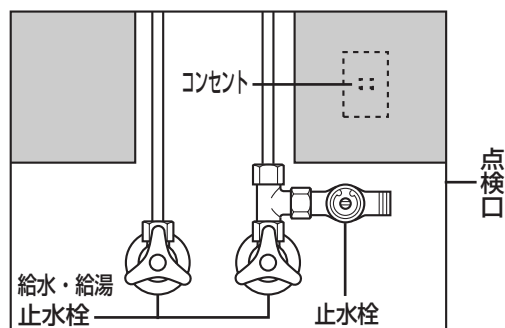
- 電気工事士の方が行ってください。
- 電線は、後板の  の範囲内から **1.5 m 以上** 引き出してください。
(VVF φ 1.6 mm または φ 2.0 mm アースなし)
- コンセントは、キャビネット庫内の  の範囲内で、整水器本体設置側に取り付けてください。
- 電線引き出し位置・コンセント取付位置は、キッチンの高さに合わせて調整してください。
- 指定の範囲に取り付けできない場合は、電源プラグがすぐに取りはずせる位置を選んで、コンセントを設置してください。
- 電線を引き込んだ穴には、防虫シートを貼り付けてください。
(付属の防虫シートを切って、使用してください。)

キャビネット内にコンセントが固定できない場合



- キャビネット外 (配管スペース) にコンセントを取り付けてください。

点検口  範囲内に設置してください。



- 次のような場所に設置してください。
 - 止水栓より上部
 - 電源プラグの抜き差しがしやすいところ
 - 配管からの水漏れ・結露水がコンセントにかからないところ

注意

配管スペースにコンセントを設置する場合、点検口のふたは、ネジ止めなど取りはずしに工具が必要な固定をしない



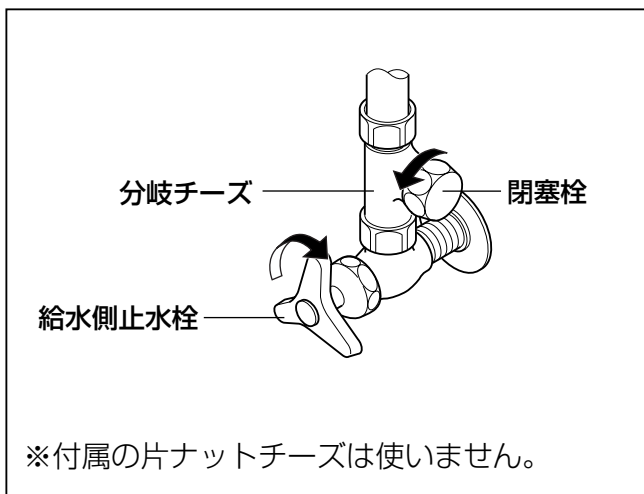
禁止

万一の異常発生時に、電源プラグが抜けず、漏電・発火の原因になることがあります。

止水栓の取り付け

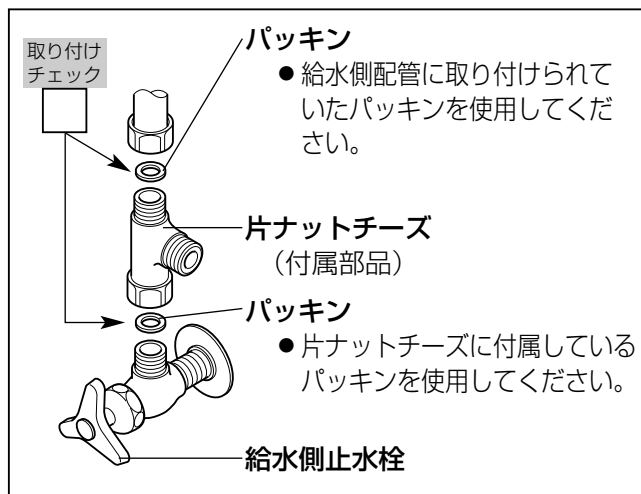
給水側配管に
分岐チーズがついている場合

- 1 給水側止水弁を閉じてから
給水側配管の閉塞栓をはずす

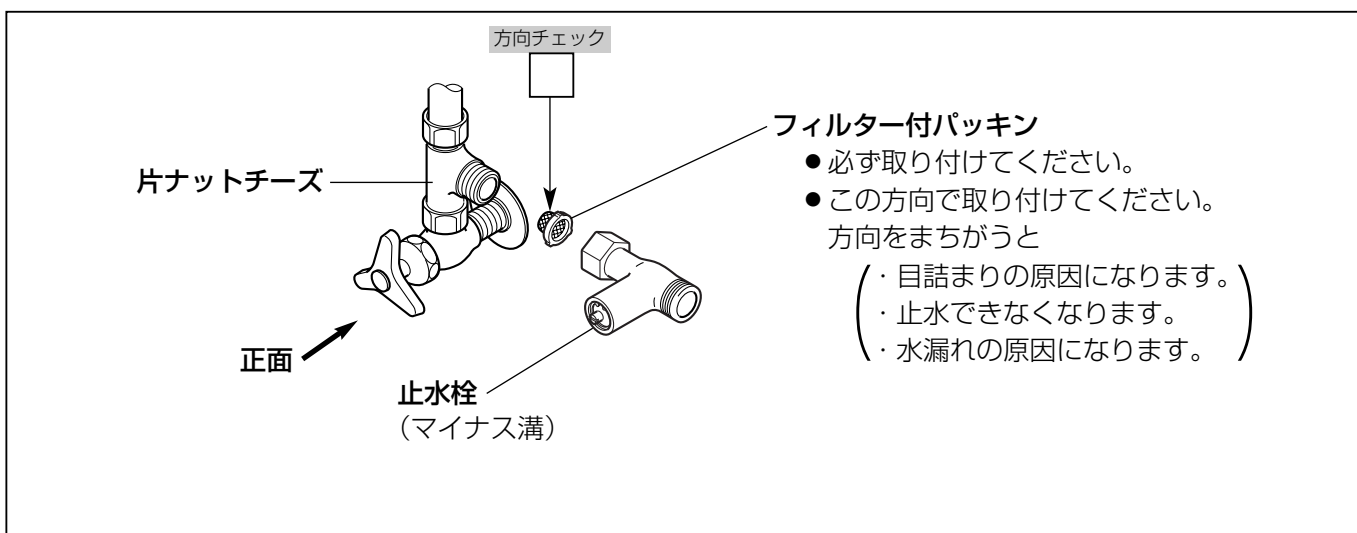


給水側配管に
分岐チーズがついていない場合

- 1 給水側止水栓に
片ナットチーズを取り付ける



- 2 片ナットチーズに止水栓を取り付ける



- 給水側配管に給水側止水栓が設置されていないときは、必ず給水側止水栓を設置してください。
- メンテナンス時に操作しやすいように、止水栓（マイナス溝）を正面に向けて取り付けてください。
- フィルター付パッキンは、必ず取り付けてください。
(取り付けしていないと、整水器本体内部の電磁弁にゴミが詰まり、止水できなくなります。)
- 給湯配管には接続しないでください。

ワークトップへの穴あけ

ワークトップ(カウンタートップ)に、整水器用水栓を取り付けるための穴をあけてください。

- ワークトップに穴をあける際は、整水器本体や止水栓に切りくずが入らないようにしてください。
(通水路に切りくずが入ると、故障や水漏れの原因になります。)
- 電気ドリルは回転式で、使用するホールソーに適したものをご用意ください。
- インパクトドライバーや振動ドリルなど、たたきつけながら穴をあける工具は、使用しないでください。
(ワークトップが変形・破損する原因になります。)
- 工具を、無理な力でワークトップに押し付けしないでください。
(ワークトップが変形・破損する原因になります。)
- 硬い人工大理石カウンターの場合は、予備の工具(ホールソー替刃)をご用意ください。
(刃が磨耗して、穴あけしにくくなります。)
- ワークトップの厚みを考慮し、厚さ 30 mm に対応できる工具を使用してください。

⚠ 注意

- ワークトップ(カウンタートップ)の穴あけには、材質に合った工具を使う
(天然大理石、ホーローなど特殊なものについては、キッチンメーカー指定の工事方法で行ってください。)



無理に穴あけをしようとすると、ワークトップ(カウンタートップ)を破損する原因になることがあります。

- ワークトップ(カウンタートップ)が厚さ 30 mm 以上の場合は、穴あけしない



禁止

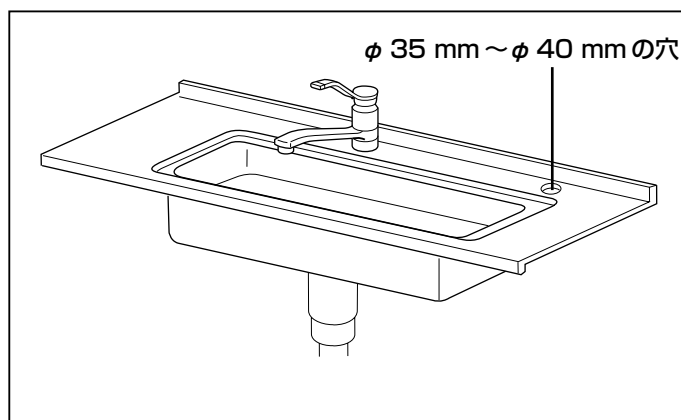
取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

1 穴をあける位置を決める

- 10ページの「整水器用水栓の位置決めポイント」を参照し、穴をあける(整水器用水栓を取り付ける)位置を慎重に決めてください。

2 φ 35 mm ~ φ 40 mm の穴をあける

- 穴はφ 40 mm を超えないようにしてください。
(流し台内部への水漏れの原因になります。)

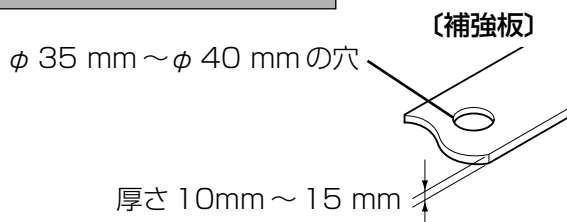


- 穴あけ後、バリやエッジをヤスリなどできれいに取り除いてください。
- 穴あけ作業終了後は、くずをきれいに取り除いてください。

ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合

(また、補強板が付いていても、ワークトップと合わせた厚さが5 mm 以下の場合)

厚さ 10 mm ~ 15 mm の補強板にφ 35 mm ~ φ 40 mm の穴をあけ、ワークトップの内側に両面テープなどで取り付けて補強してください。

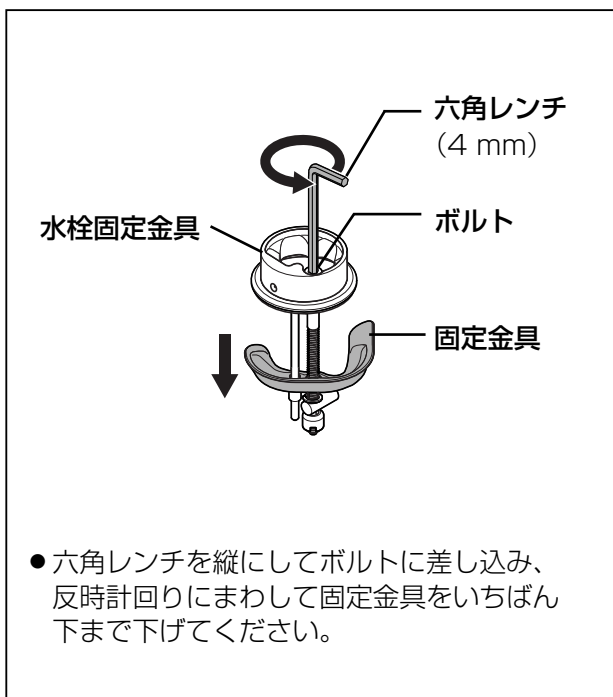


整水器用水栓の取り付け

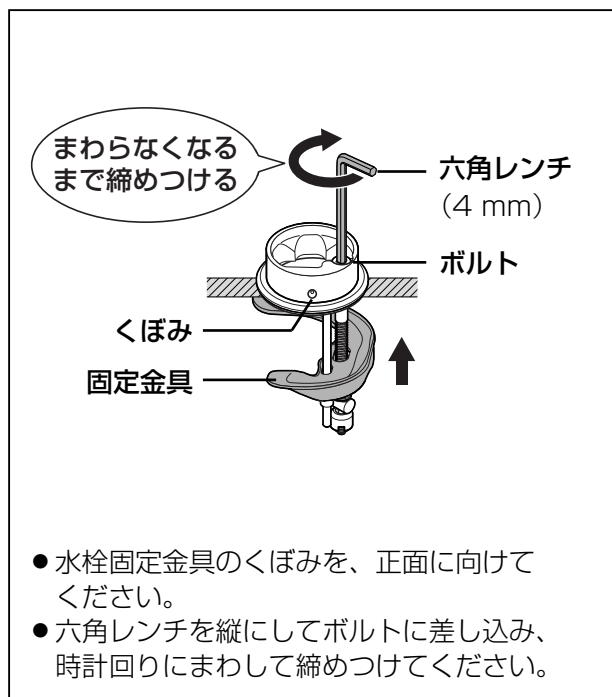
水栓固定金具（付属部品）を使い、ワークトップの穴に整水器用水栓（付属部品）を取り付けてください。

- 整水器用水栓を取り付ける前に、穴の周囲の汚れを取り除き、きれいにしてから取り付けてください。
- 水栓固定金具は正しく取り付けてください。取り付けに不備があると、整水器用水栓のガタツキや、流し台内部への水漏れなどの原因になります。
- 電動ドライバーを使用する場合は、クラッチ作動トルクを $3\text{ N}\cdot\text{m}\sim 7\text{ N}\cdot\text{m}$ の範囲に必ず設定してください。また、クラッチ回転速度を「低速」に設定しないでください。トルクが大きくなり、水栓固定金具が破損するおそれがあります。

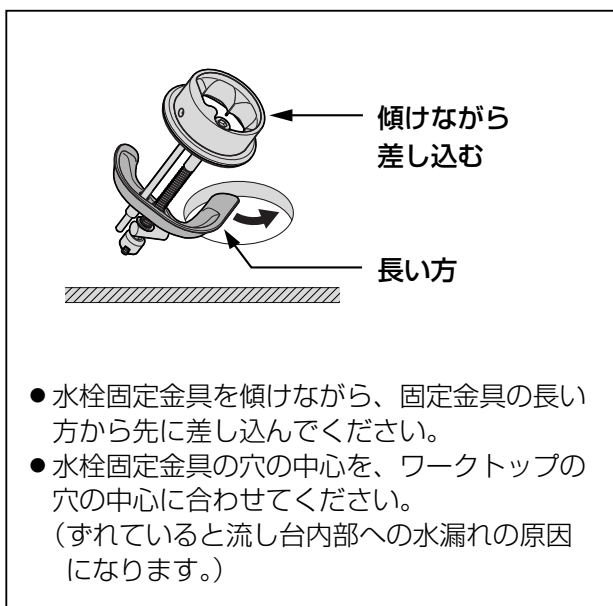
1 水栓固定金具の固定金具を、いちばん下まで下げる



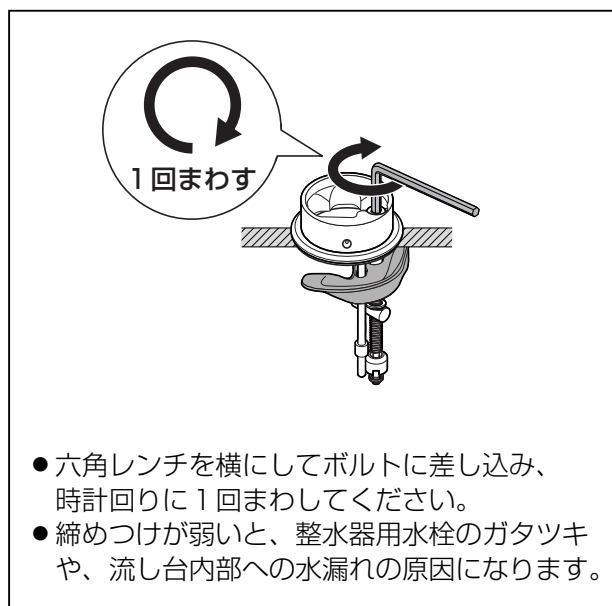
3 水栓固定金具のボルトを締める



2 ワークトップの穴に、水栓固定金具を差し込む

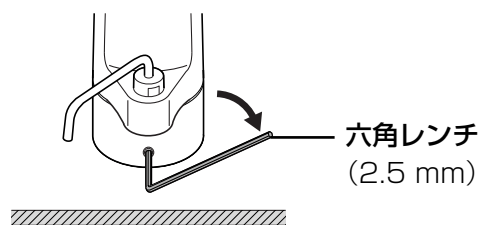
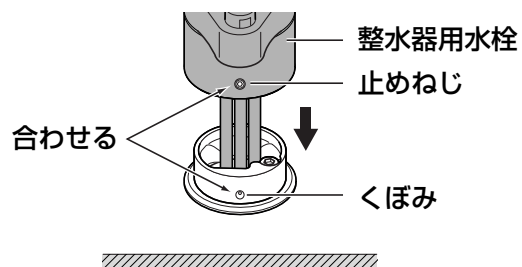


4 さらに強く締めつける



整水器用水栓の取り付け

5 水栓固定金具に、整水器用水栓を取り付ける



- 整水器用水栓のホースやコードは、ねじらずまっすぐに束ね、止めねじを水栓固定金具のくぼみに合わせて差し込んでください。
- 差し込みにくい場合は、止めねじを少しゆるめ、水栓を左右にゆすりながら差し込んでください。

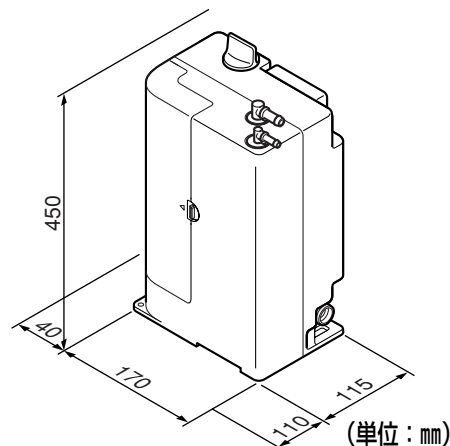
- 整水器用水栓に浮きがないように取り付けてください。
- 止めねじをくぼみに確実にねじこみ、止めねじの頭が整水器用水栓の表面から出ないようにしてください。

整水器本体の設置と接続

整水器本体をキャビネット内に設置し、止水栓と整水器用水栓に接続します。

- カートリッジの交換およびカルシウム添加のため、右記寸法のスペースが必要です。
- 吐水ホース・排水ホース・給水ホースは、折れ曲がらないようにしてください。
(水漏れや適切な pH の水が出ない原因)
- 吐水ホース・排水ホースは、山形配管にならないようにしてください。
適切な長さに切ってください。
(適切な pH の水が出ない原因)

(悪い例)



- 配管終了後は、付属のホース固定バンド(2本)でホース類を固定してください。
- 配管終了後に整水器本体が傾かないようにしてください。
[傾くときは、整水器本体を固定してください。(21 ページ参照)]



- 「整水器用水栓をキャビネット外(配管スペース)に取り付ける場合」は、配管用の貫通穴が必要になります。(20 ページを参照してください。)

1 整水器本体に給水ホースを接続する(接続後は、給水ホースを引っぱって抜けないことを確認する)

注意

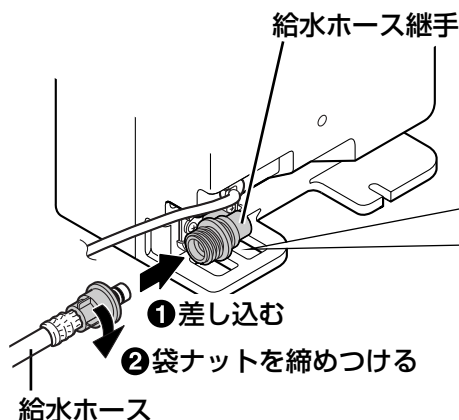
給水ホースは最後まで差し込み、袋ナットをしっかりと締めつけ、固定金具(クイックファスナー)を確実に取り付ける



不備の場合、水漏れの原因になり、大きな補償問題になることがあります。

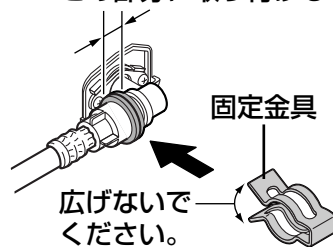
- 袋ナット(樹脂性)の締めつけに、工具を使用しないでください。

接続のしかた

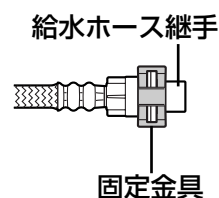


③ 固定金具(クイックファスナー)を取り付ける

この部分に取り付ける

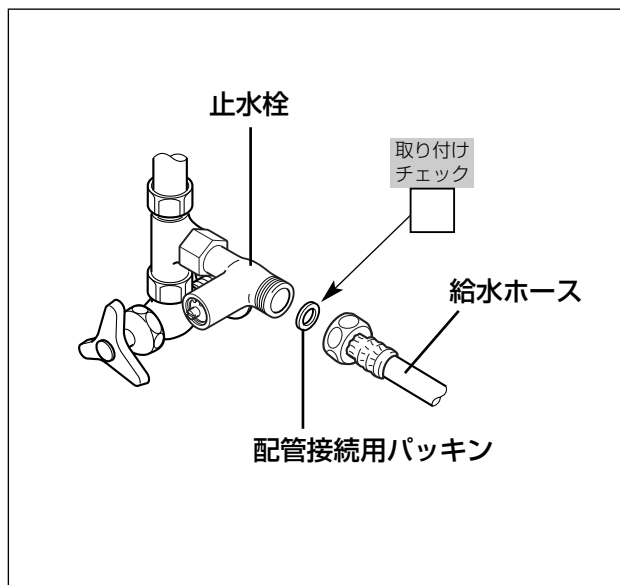


取付完了図



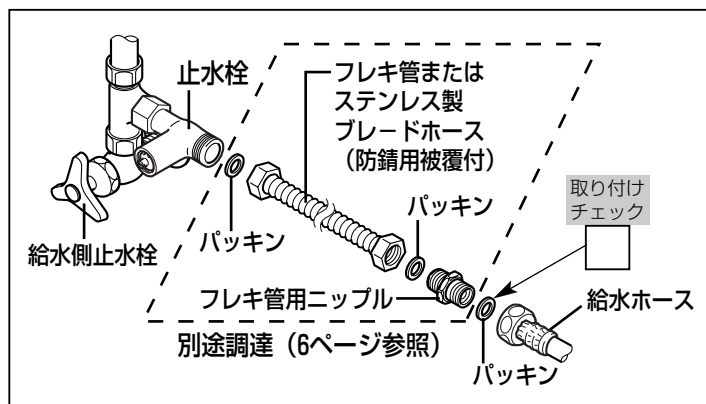
整水器本体の設置と接続

2 止水栓に給水ホースを接続する

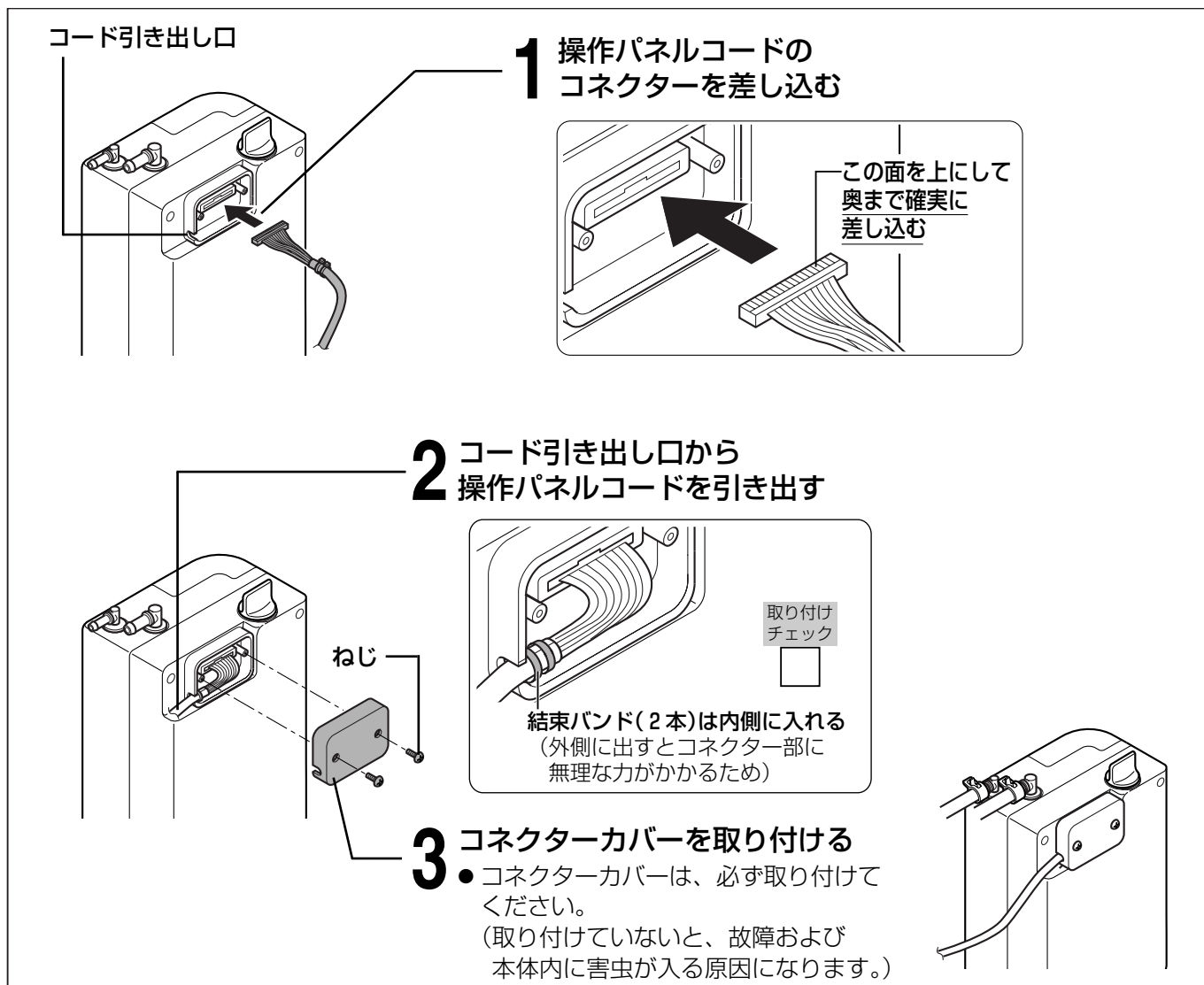


■ 配管の延長が必要な場合

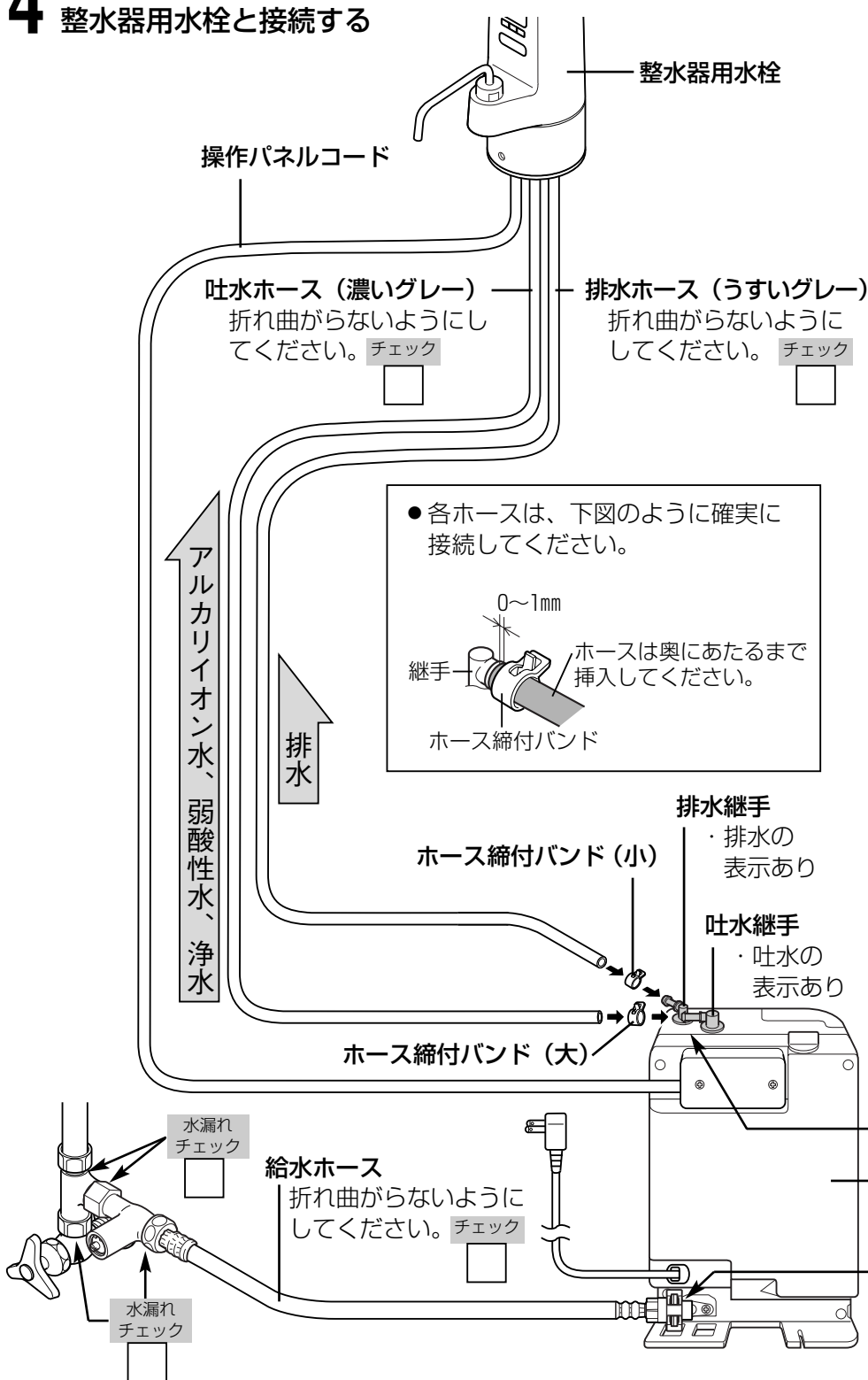
- 整水器本体は、吐水ホース、排水ホース（各々、約940 mm）が届く範囲内に設置してください。
- 整水器本体と給水側止水栓との距離が長い場合は、配管延長用に必要な部品（6ページ参照）を別途調達し、配管してください。



3 整水器本体に操作パネルコードを接続する



4 整水器用水栓と接続する



●各ホースは、下図のように確実に接続してください。

0~1mm

継手

ホース締付バンド

ホースは奥にあたるまで挿入してください。

⚠ 注意

■ホース類は確実に接続する

❗ 万一、水漏れが起これると、大きな補償問題になることがあります。

■ホース類は、ゆるやかにつづれないように曲げる

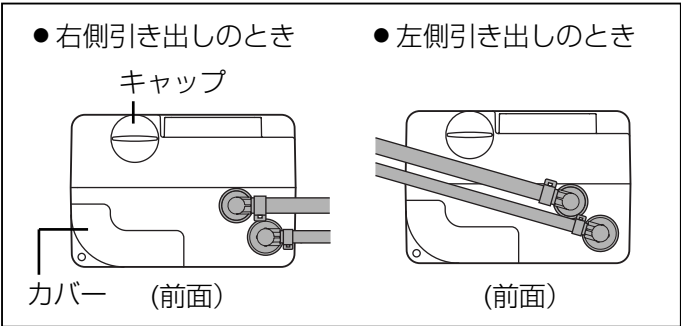
❗ 急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損の原因となり、漏水し、家財などをぬらす原因になることがあります。

■吐水ホースと排水ホースを切るときは、継手からはずして切る

❗ 継手に傷が付き、水漏れが起これると、大きな補償問題になることがあります。



●吐水ホースと排水ホースは、たるみすぎないように適切な長さに切ってください。
また、カルシウム添加筒のキャップやカートリッジのカバーにかからないようにしてください。



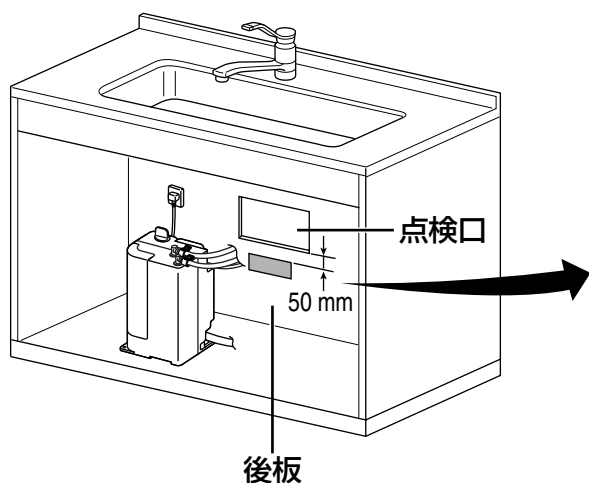
整水器本体の設置と接続

整水器用水栓をキャビネット外(配管スペース)に取り付ける場合


点検口の近くに配管用の貫通穴をあけて、配管を接続してください。

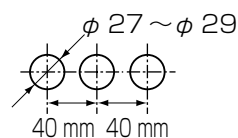
- 配管後は、貫通穴を防虫シート(付属部品)でふさいでください。

〈後板が穴加工可能なキャビネットのとき〉

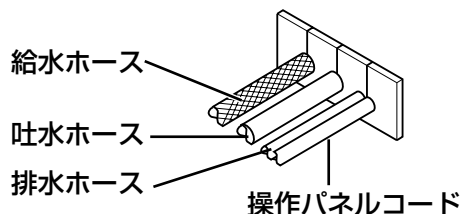


- 点検口は、必ず設けてください。

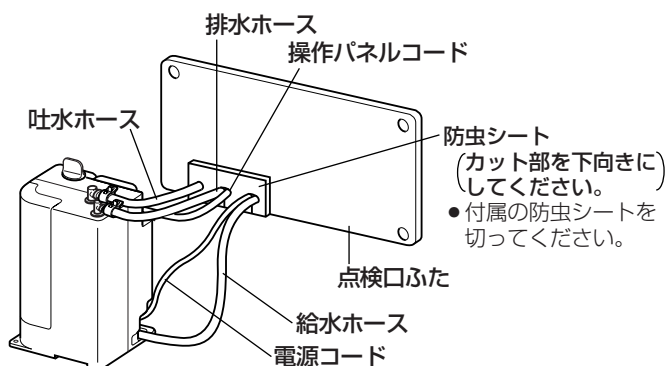
-  の範囲内に、穴あけをしてください。



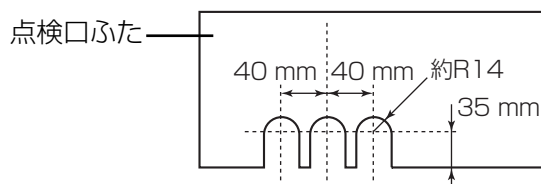
- 配管後、防虫シート(付属部品)を貼り付けてください。



〈後板が穴加工できないキャビネット(天然大理石・ホーローなど)のとき〉



- 点検口ふたを、切り欠いてください。



- 防虫シートは、必ずカット部を下向きにして貼り付けてください。
(上向きに貼ると、点検口ふたが取りはずせません。)

⚠ 注意

点検口は、必ず整水器用水栓を含む配管接続部全体が点検できるように設ける

- 次のような場合に止水栓の開閉が必要です。
 - 水道配管や整水器用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検時
 - 止水栓のフィルター付パッキンの清掃時



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

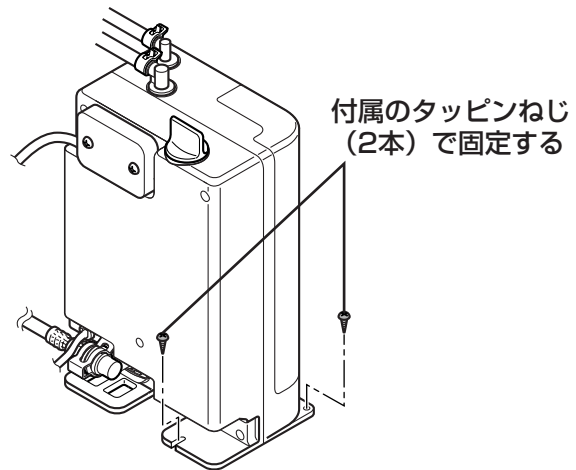
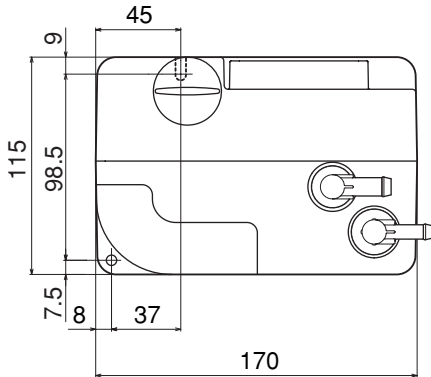
- 点検口には、必ずふたをしてください。

整水器本体の固定／ずれ防止について

設置後、整水器本体が不安定なときは、下記の手順にて整水器本体を固定するか、L字金具を使用してずれ防止を行ってください。

■ 整水器本体の固定

●ねじ穴の位置図 (単位：mm)

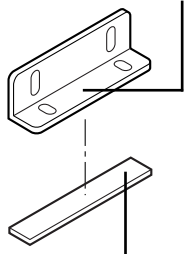


■ 整水器本体のずれ防止について (整水器本体が直接タッピンねじで固定できない場合)

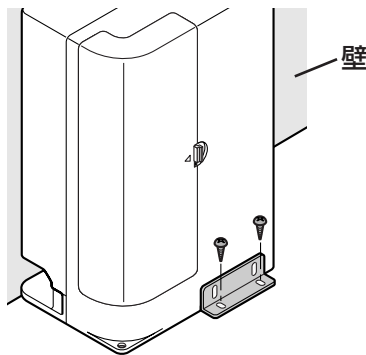
●L字金具を整水器本体の外に出す場合

(整水器本体前面にL字金具取付スペースがあるとき)

L字金具の短い面を下にして取り付ける



タッピンねじで固定できないときは、
付属の粘着テープで固定する

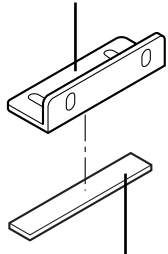


- 1 整水器本体後面を壁にあてる
- 2 整水器本体前面にL字金具があたるように、付属のタッピンねじまたは粘着テープで床に固定する

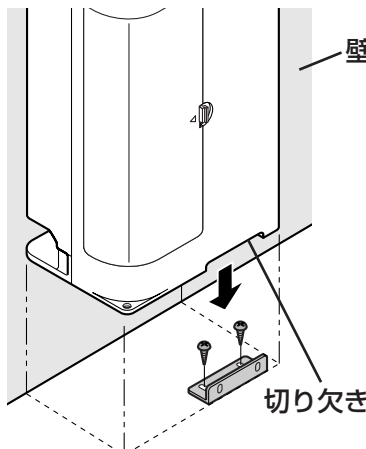
●L字金具を整水器本体の下に入れ込む場合

(整水器本体前面にL字金具取付スペースがないとき)

L字金具の長い面を下にして取り付ける



タッピンねじで固定できないときは、
付属の粘着テープで固定する

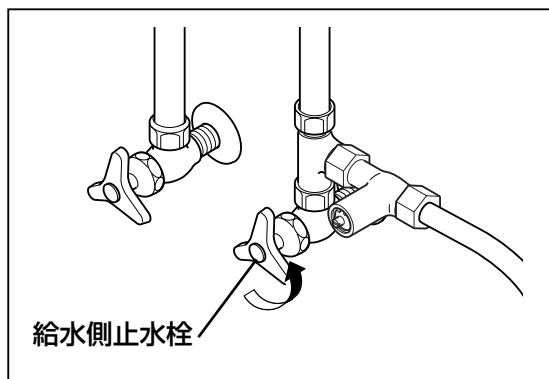


- 1 整水器本体後面を壁にあてる
- 2 整水器本体前面にL字金具があたるように、付属のタッピンねじまたは粘着テープで床に固定する
- 3 整水器本体の切り欠き部にL字金具をあわせて、本体を設置する

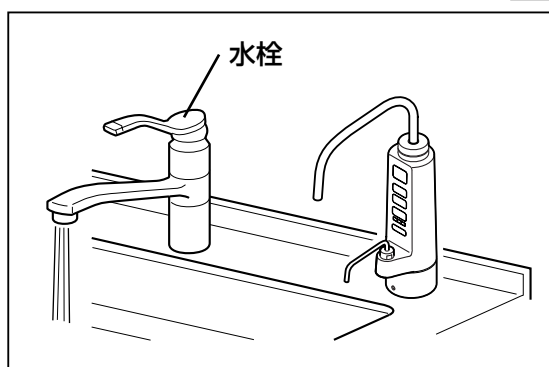
最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）

- 整水器本体に水を通す前に、必ず給水側止水栓を開いて、整水器用水栓以外の水栓から水を出してください。
〔配管内のゴミなどを出すため（ゴミが整水器本体内部の電磁弁に詰まると、誤動作の原因になります。）〕
- 配管接続部の水漏れは、必ず止水／通水スイッチを数回押して、確認してください。
（通水後、1秒間は止水できません。）
- お客様（施主）引き渡しの際は、アルカリを「弱」に設定し、水質は「浄水」にしてください。

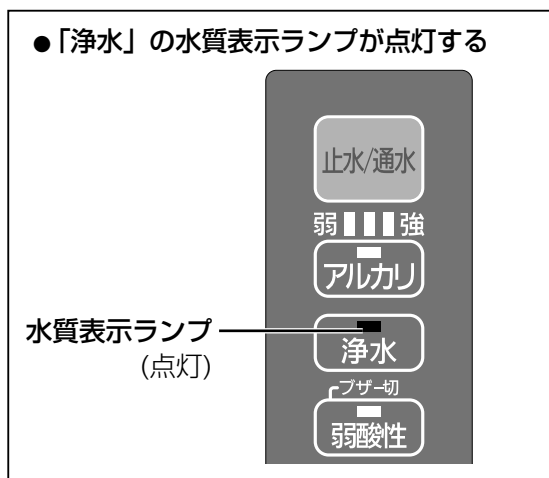
1 給水側止水栓を開く チェック



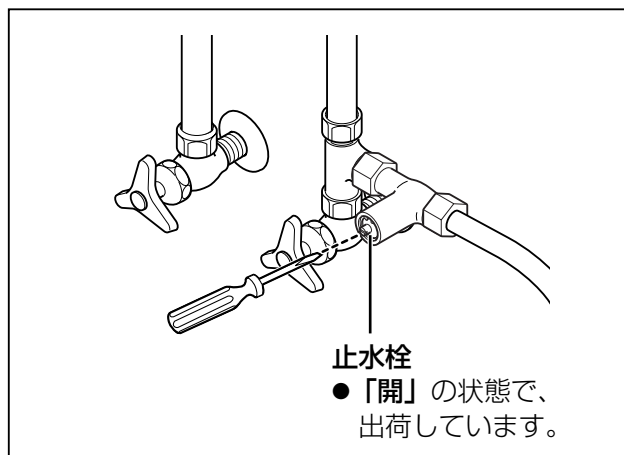
2 水栓を開く チェック （配管内のゴミなどを出すため）



3 整水器本体の電源プラグを、コンセントに差し込む チェック （ブザーが「ピッ」と鳴る）



4 止水栓が開いているのを確認する チェック



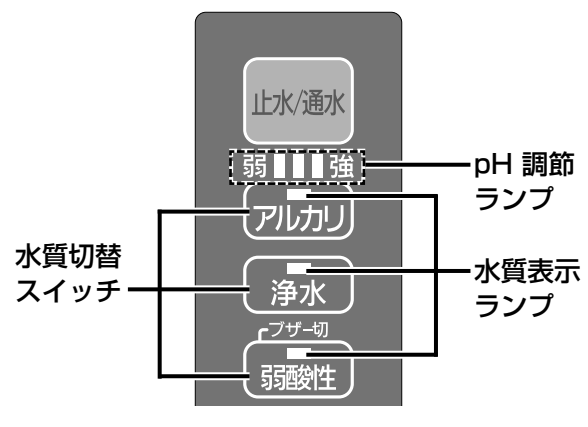
5 水質切替スイッチを押し、操作パネルの動作を確認する チェック

- 下記の手順で水質切替スイッチを押し、選択した水質の水質表示ランプおよび pH 調節ランプが点灯するか確認する

アルカリ（アルカリ「弱」点灯）⇒ アルカリ（アルカリ「中」点灯）⇒ アルカリ（アルカリ「強」点灯）⇒
アルカリ（アルカリ「弱」点灯）⇒ 浄水（浄水点灯）
⇒ 弱酸性（弱酸性点灯）⇒ 浄水（浄水点灯）

- 水質切替スイッチを押したとき、ブザーが「ピッ」と鳴るか確認する チェック

※アルカリ「強」⇒「弱」は、ブザーが「ピッピッ」と鳴る



6 止水／通水スイッチを押し、浄水を約 10 リットル (約 5 分間) 流す チェック

(カートリッジ内の空気抜きのため)

カートリッジ寿命ランプ (緑色)

水信号ランプが約 23 ～ 29 秒間点滅後、点灯に変わります。

- 水信号ランプとカートリッジ寿命ランプ (緑色) が、点灯していることを確認する チェック
- 浄水を流し、水信号ランプ (緑色) 点灯後、排水口の水が止まっているか確認する チェック
- アルカリイオン水を流し、排水口から水が出ているか確認する チェック
※ 水が出ていないときは、排水ホースが折れていないか確認してください。

7 配管の接続部およびカートリッジ部分から水漏れがないか確認する チェック

(カートリッジからの水漏れは、整水器本体のカバーを開けて確認してください。)

(カバーのはずしかた)

カバー

少し押しながら

(カバーの取り付けかた)

つめを入れる

8 通水量の確認を行う (24 ページ参照)



- 動作に異常がある場合は、操作パネルコードのコネクターが、確実に接続されているか確認してください。(18 ページ参照)



- 止水／通水スイッチを押して水を止めても、吐水口および排水口からポタポタと水が落ちることがありますが、異常ではありません。カートリッジ内の空気が抜けていないと起こりやすくなりますので、最初に浄水を約 10 リットル (約 5 分間) 流して空気を抜いてください。
- 弱酸性水を使用した後は、止水／通水スイッチを押しても、約 5 秒間水が出ます。(本体内の弱酸性水を排水しています。)
- pH 測定については、取扱説明書の 9 ページを参照してください。

⚠ 注意

最終点検時は、整水器用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検を十分に行う



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）

■ 通水量確認

下記の手順で、整水器本体への通水量が適正になっているか確認してください。
適正になっていないときは、止水栓で通水量を調整してください。

1 電源プラグをコンセントから抜き、**アルカリ** と **浄水** を同時に押しながら、再度差し込む (ブザーが「ピッピッ」と鳴る)

- 通水量確認モードに設定します。(「浄水」の水質表示ランプが点滅)

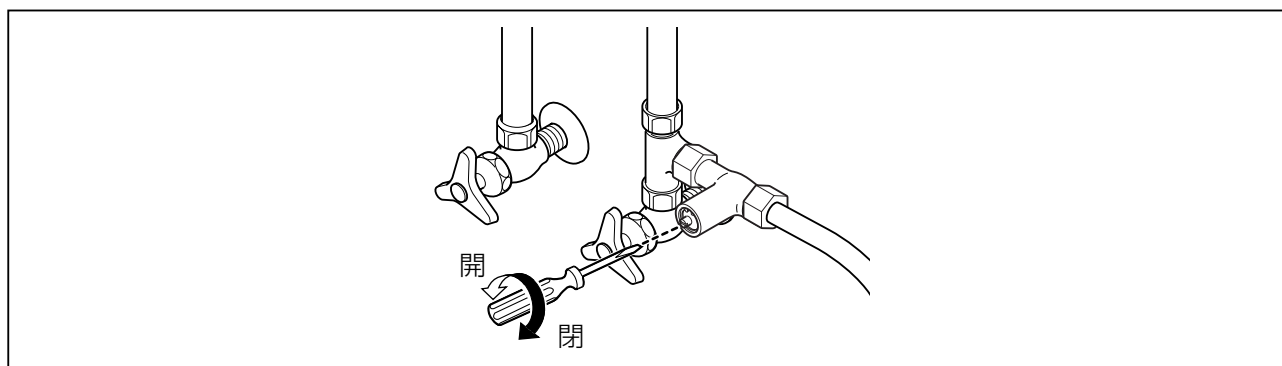
2 止水／通水スイッチを押して通水し、通水量を確認する

- 通水中は、水信号ランプが緑色に点滅します。(通水量が少なすぎる場合は、点滅しません。)

通水量は、pH 調節ランプとブザー音で確認する

通水量	pH 調節ランプ	ブザー音
多い	アルカリ「強」点灯	ピーピー…
適正	アルカリ「中」点灯	ピッピッ…
少ない	アルカリ「弱」点灯	無音
少なすぎる	アルカリは点灯しない	無音

3 通水量が適正でないときは、止水栓で調整する



4 電源プラグをコンセントから抜き、操作パネルのランプが完全に消灯し、5 秒以上経過してから、再度差し込む (ブザーが「ピッ」と鳴る)

- 通常使用モードに戻ります。



- 工事・点検終了後は、止水していることを確認してください。
- 点検終了後、シンクに付着した水はふき取ってください。
(水あかやシンクの変色などの原因になることがあります。)



- 水圧が低い場所では、適正な通水量にならないことがあります。(水圧 100 kPa 未満)
そのときは、カートリッジ寿命が短くなる場合がありますので、お客様（施主）へご連絡ください。
- 通水量が少なすぎるときは、電気分解をしません。

■ 最終点検時トラブル対応表

トラブル	対応 (チェック項目)	参照ページ
電源プラグをコンセントに差し込んでも、操作パネルのランプが点灯しない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？	18ページ
操作パネルのスイッチ操作ができないまたは、動作に異常がある	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？	18ページ
排水口から水が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● 排水ホースが折れ曲がっていませんか？ ● 「浄水」にして通水していませんか？ 	19ページ 23ページ
水漏れしている	各配管の接続部には、ホース締付バンドや固定金具を確実に取り付けていますか？	17、19ページ
	付属の止水栓に、フィルター付パッキンが正しい方向で取り付けられていますか？	13ページ
止水／通水スイッチを押しても水が出ない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？	18ページ
	止水栓は開いていますか？	22ページ
止水／通水スイッチを押しても水が止まらない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？ ※水を止めても、吐水口および排水口からポタポタと水が落ちることがありますが、異常ではありません。	18ページ
	付属の止水栓に、フィルター付パッキンが取り付けられていますか？ ※整水器本体内部の電磁弁にゴミが詰まると、止水できなくなります。	13ページ
	浄水を約10リットル（約5分間）流していますか？ ※カートリッジ内の空気が抜けていないと、起こりやすくなります。	23ページ

〈最終点検チェックリスト〉

チェック項目	チェック内容	チェック
水 漏 れ	接続部	未 ・ 済
	カートリッジ部	未 ・ 済
	整水器用水栓部	未 ・ 済
	整水器本体	未 ・ 済
動 作	通水量確認後、通常使用モードに設定したか	未 ・ 済
	各スイッチは、正しく動作するか	未 ・ 済
	各ランプは、正しく点灯するか	未 ・ 済
	水質切替スイッチを押したとき、ブザーが鳴るか	未 ・ 済
	排水口から水が出るか	未 ・ 済
	「浄水」にして通水したとき、排水口から水が出ていないか	未 ・ 済
	通水量の確認を行い、適正だったか	未 ・ 済
お客様(施主)への連絡事項		
チェック日	年 月 日	設置会社 TEL () - 担当者



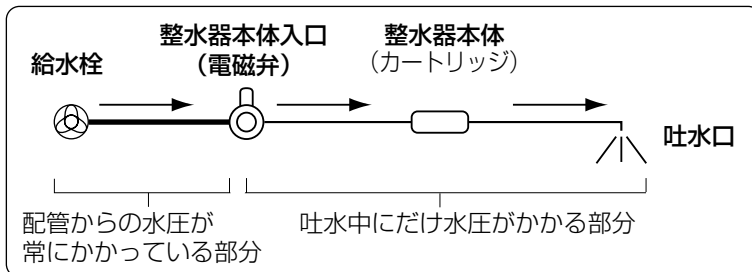
- 工事終了後、施工説明書は、最終点検チェックリストに必要な事項を記入のうえ、取扱説明書・保証書・グリセロリン酸カルシウム製剤・pH試験液と一緒に、必ずお客様(施主)にお渡しください。直接お渡しできない場合は、取扱説明書の袋に入れて、整水器用水栓にかけてください。
- 本体設置時に最終点検(水漏れ、動作および通水量確認)ができない場合は、お客様(施主)引き渡し前までに、必ず点検を行ってください。

参考

配管方式について

本器は、施工説明書に従い、必ず「元止め方式」で配管してください。

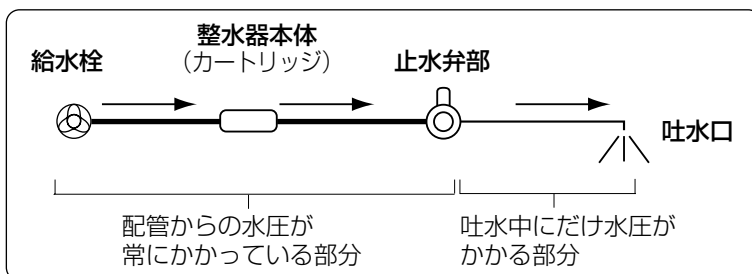
元止め方式とは…



吐水中にだけ、整水器本体(カートリッジ)に水圧がかかる方式

- お客様が不在のときなどの漏水事故で、過大な損害が発生することを防止する方式です。

先止め方式とは… (参考)



常に整水器本体(カートリッジ)に水圧がかかる方式

- 先止め方式の場合は、止水／通水スイッチを押すと、すぐに水が止まります。

カートリッジについて

本器に装着しているカートリッジ（品番：TKB6000C1）で除去できる物質は、下記の13種類です。それ以外の有害物質や、水中に溶け込んでいる鉄分・重金属類（銀・銅など）・塩分（海水）は、除去できません。

除去できる物質

- 遊離残留塩素
- 濁り
- 総トリハロメタン
- クロロホルム
- ブロモジクロロメタン
- ジブロモクロロメタン
- ブロモホルム
- テトラクロロエチレン
- トリクロロエチレン
- 1,1,1-トリクロロエタン
- CAT（農薬）
- 2-MIB（カビ臭）
- 溶解性鉛

メモ

パナソニック電工株式会社 ヘルシー・ライフ事業推進部

〒522-8520 滋賀県彦根市岡町33番地

© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2008

ZKJ0TKB60000B F0407T3031 ①